

## 地球環境グループ

平田大二（当館学芸員）

新しい博物館には、地球科学分野を担当する部門として、新たに古生物・地球環境担当という部門が設置されました。この部門には、古生物学と地球環境の2グループがあります。地球環境グループは地質学、岩石学、鉱物学、地球化学、海洋光学を専門とする学芸員5名により構成されています。その活動は、地球の起源と進化、地球環境の変遷など地球規模の自然現象と、地元神奈川の大地の生い立ちを対象にして、展示活動や調査研究、資料収集・整理保管、教育普及などを進めていきます。

### 展示のみどころ

「地球」展示室は、地球誕生と初期地球の様子、地球の仕組み、地球の営みが造り上げた景観と岩石、生命活動による地球環境の変化などを題材に、ストーリー性のある展示となっています。地球や生命の起源と進化、そしてその相互のかかわり合いの歴史について、最近の考え方を取り入れて大胆に展開しました。このような展開をおこなううえで重要なのが、隕石やプレカンブリア時代の岩石に代表される世界各地から収集された数多くの実物展示資料です。

「神奈川」展示室は、プレートテクトニクスの考え方でみた神奈川の大地の生い立ちを、地質時代にそって展示しています。丹沢山地や箱根火山、相模湾などの生い立ちと、そこに生息していた生物たちの歴史とを、岩石や化石資料を豊富に用いて展開しています。

「共生」展示室は、地球環境と人間活動とのかかわり合いについて考えることをテーマに展開しています。地球環境の仕組み、地球環境の現実、人間活動が地球環境に及ぼす影響について人工衛星画像や写真データベースなどを用いて解説し、これからの人類の進むべき道について共に考えることを提案しています。



完成間近の岩石の壁（常設展示室－地球－）。

### 調査研究活動

博物館も進化発展していく必要があります。そのためには、学芸員の調査研究活動や資料収集活動などの成果が展示活動や普及活動に常に反映され、博物館を充実させていくことが大切です。そこで新館となって、調査研究活動も新しい枠組みで始められています。テーマ性を重視し、外部の研究者の協力を得て進める総合研究計画として、「地球熱史」計画（平成6～8年度）が始められています。地球の誕生から現在まで、いかに地球はその内部の熱を外部へ放出し続けてきたか、その結果どのような地球科学的な現象が起きたのかを解明しようとするものです。また、「伊豆・小笠原弧の地学的研究」（平成7～9年度）もスタートしました。プレート境界域に位置する、丹沢山地から伊豆半島、伊豆・小笠原諸島周辺の地質発達史を解明しようとする計画です。さらには、館職員によるグループ研究

として、神奈川の地球誌編纂計画、県内のエアロゾルの観測と分析計画にも取り組み、神奈川の地球科学と地球環境に関する基礎データを収集しデータベースの構築を計ることを目指しています。そして、学芸員個々の研究能力を向上させるためものとして、個別研究テーマを設定し、それぞれのテーマについても研究を進めていきます。私たちは地球や生命、そして神奈川の自然についてもっと知りたいし、もっと知ってもらいたいと考えています。自然を理解するためには、自然から学ぶのが一番です。博物館は、自然を学ぼうとする人たちにとって、その手助けをすることであり、学芸員はその案内役です。子どもからご年輩の方まで、アマチュアから専門家まで、博物館を利用する多くの方々にとって常に「開かれた博物館」であり続けられるよう、努力していきます。

### 「神奈川地学会」

1950年（昭和25年）に、新制大学として発足したばかりの横浜国立大学地学教室のスタッフが中心となり、地学の啓蒙普及のためにできた同好会です。地学会の名の通り、対象とする分野は地質、岩石、鉱物、化石、気象、気候、天文まで地球科学全般にわたっており、会員も大学や研究機関で地学を専門にしている研究者や、小中高の教師、趣味で地学を愛好しているアマチュア、最近地学に興味をもたれた初心者まで幅

広い構成となっています。現在、会員は約170名。年に1回の総会と随時野外観察会や施設見学会を催しています。また、会報「神奈川地学」を年1回、そして地学ニュースを随時発行しています。現在、本部を横浜国大地球学教室に置き、事務局を県立生命の星・地球博物館の地学スタッフで担当しています。今後もより一層、地学の啓蒙につとめるため、活発に活動をおこなっていきたいと考えています。お問い合わせは当館気付、神奈川地学会事務局まで。